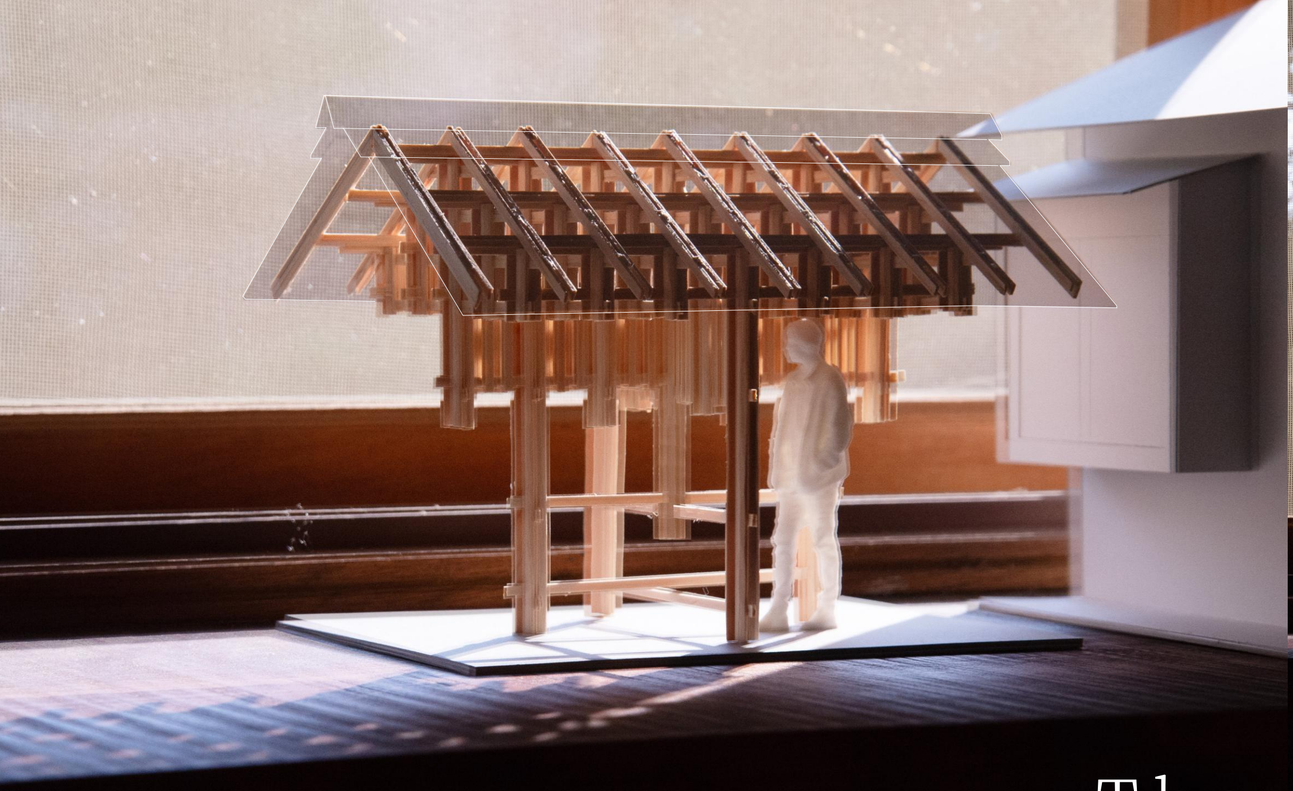


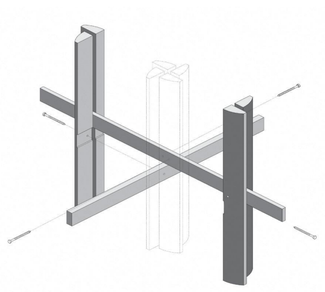




The Roof

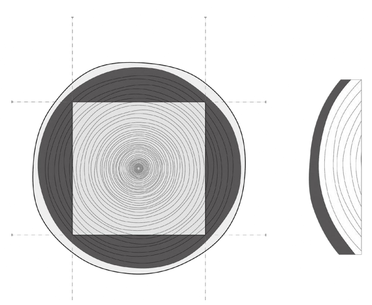
- 木端材を活用した屋根架構 -



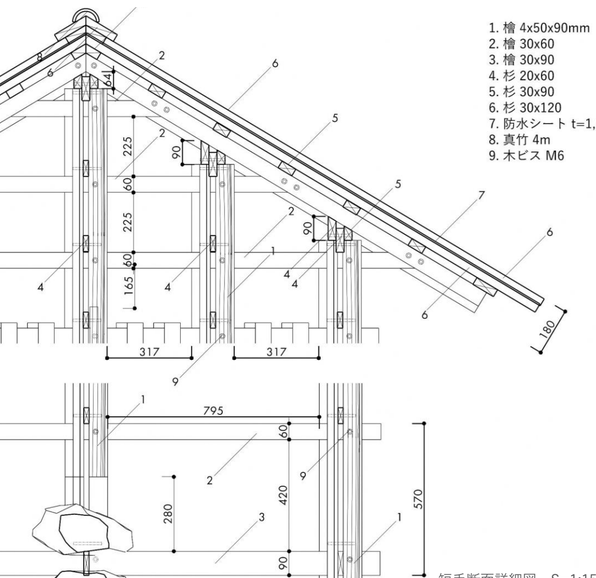


過疎化する里山地域において、土地に根ざした産業と技術をいかに未来へと継承していくか。本提案は、これまで続けられてきた地域の営みを尊重しつつ、現在に対して新たな価値を纏わせる建築のあり方を探るものである。

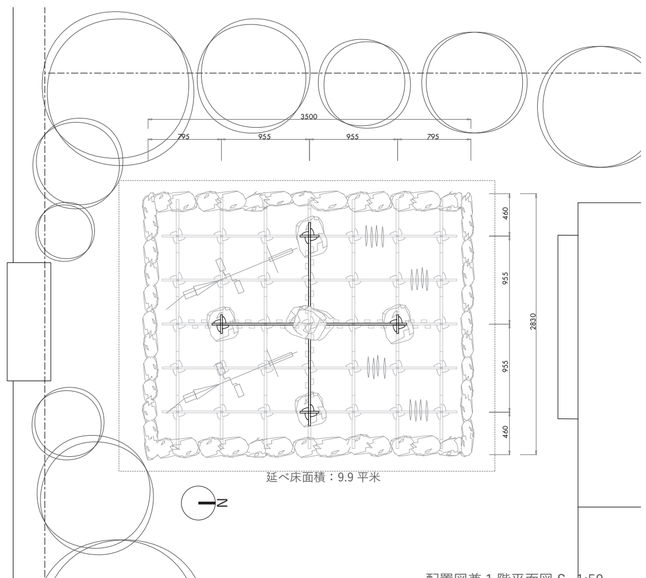
木材の生産過程で必然的に生じる端材を地域産業の特色として捉え直し、建築資材として積極的に活用することで、その土地のアイデンティティを空間として表現する。規格化された製材から生まれる歪な形をそのまま受け入れる架構によって、建築を構成することを試みた。本提案では私が現在滞在中の京都市京北地域の古民家敷地内に屋外で雨を凌ぎながら、自転車を停めておくため、あるいは洗濯物を干すためのスペースとして小さな屋根を計画した。





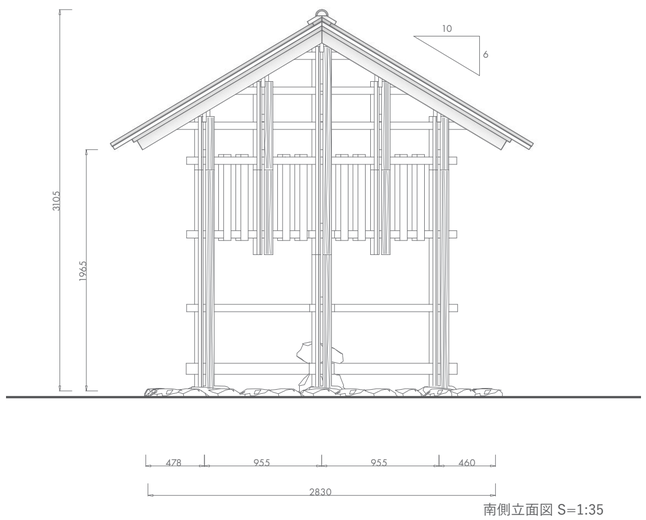


短手断面詳細図　S=1:15

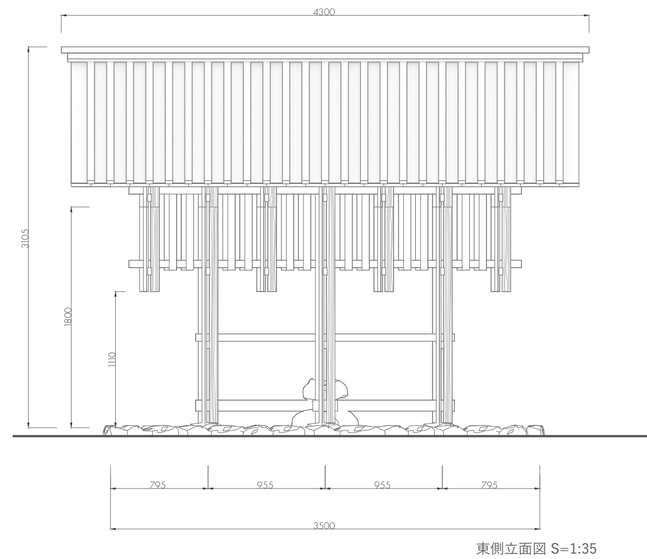


延べ床面積：9.9 平米

配置図兼 1 階平面図 S=1:50



南側立面図 S=1:35



東側立面図 S=1:35